229

^{123}I-BMIPPシンチグラフィの多枝冠動脈病変例における診断能

成瀬　均，正井美帆，有井　融，森田雅人，志水敬子，大柳光正，岩崎忠昭（兵庫医大一内），福地　稔（同核）

多枝冠動脈疾患7例合計20血管において，健常例11例より作成した正常ファイルを用いたcircumferential profile定量解析により^{123}I-BMIPPシンチグラフィSPECTの診断能力を評価した。50%以上の狭窄を有意とした場合，感度50%，特異度0%，正診率48%であり，狭窄度75%以上ではそれぞれ50%，40%，48%，狭窄度90%以上では58%，56%，57%，狭窄度99%または完全閉塞では83%，60%，67%であった。以上より軽度の狭窄の場合は約半数程度しか診断できず，高度狭窄では感度，特異度ともよくなるものの多枝冠動脈病変例における診断能には限界があると思われた。

230

不安定狭心症の診断における安静時^{123}I-BMIPP心筋シンチグラフィの有用性-後期像を含めた検討-

羽鳥　貴，外山卓二，星崎　洋，飯塚利夫，金沢紀雄，若松　秀，有坂弘明，井上登美夫，遠藤啓吾，鈴木忠，永井良三(群馬県心筋代謝画像検討会)

不安定狭心症における安静時^{123}I-BMIPP心筋シンチの後期心筋SPECTの診断的意義を検討した．対象は不安定狭心症にて入院となった連続16例に^{123}I-BMIPP心筋早期および後期SPECT像を他日Tl心筋SPECTを撮像．SPECTは20区域に分割しdefect scoreで評価し合計をTDSとした．全例に冠動脈造影を施行し75%狭窄以上を有意とした．変検出率は早期像56 %(9/16)に比し後期像で75%(12/16)と高くかつTDSも高値を示した．不安定狭心症の診断には安静時^{123}I-BMIPP心筋シンチの後期像が有用である．

Presented by Medical*Online